節目の年－２０１５年

　今年もあとわずかとなりました。２０１５年は日本の敗戦から７０年の節目の年であると同時に、１９６５年の日韓国交回復から５０年の年でもあります。しかし、「近くて遠い国」という表現があるように、隣の国でありながら日韓関係は歴史清算をめぐり関係が冷え込み、１１月２日におよそ３年半ぶりに日韓首脳会談がひらかれたものの、その解決の道筋は見えません。

　日本と韓国における日韓会談文書の公開は、慰安婦問題や被爆者問題での憲法裁判所決定や強制連行問題での大法院判決など、１９６５年の日韓条約が切り捨てた歴史清算問題を再び歴史の表舞台に引き出しました。「１９６５年体制」は大きく揺らいでいます。今必要なことは、問題解決を先送りするのではなく、困難であっても歴史の真実に目を向け、正面から解決の道を探ることです。私たちの運動で開示された日韓会談文書はその基礎となるものです。

　今年は、２００５年に「日韓会談文書・全面公開を求める会」が結成されてから１０周年にあたります。この１０年を振り返り、日韓会談文書公開運動の意義、残された課題を考えます。

パネリストの紹介

**瀬畑源（せばた　はじめ）さん**

長野県短期大学助教。専門は日本現代史、公文書管理制度。主要業績として『公文書をつかう―公文書管理制度と歴史研究』（青弓社、2011年）、 『国家と秘密　隠される公文書』（集英社新書、2014年、共著）、『戦後史のなかの象徴天皇制』（吉田書店、2013年、共著）など。

**吉澤文寿（よしざわ　ふみとし）さん**

新潟国際情報大学教授。専攻は朝鮮現代史、日朝関係史。「日韓会談文書・全面公開を求める会」共同代表。主著に「戦後日韓関係　国交正常化交渉をめぐって（新装新版）」（図書出版クレイン、2015年、単著）、永原陽子編著「「植民地責任」論　脱植民地化の比較史」（青木書店、2009年）など。

**李洋秀（い　やんす）さん**

在日韓国人２世。韓国語の通訳・翻訳家。「日韓会談文書・全面公開を求める会」事務局次長。韓国・朝鮮文化財返還問題連絡会議幹事。